

別表 4 評価対象講座等

「申請上限レベル」は、キャリア段位制度における「わかる(知識)」の程度を充足するものとして申請可能なレベルの上限を示します。レベル 2 以上の申請には、他に「できる(実践的スキル)」としての実務経験実績の提示が必要となります。なお、この経験実績には、教育機関が開講する科目に所定の評価対象項目に関する実習・実験等があればその年数(1 単位は 0.5 年分に換算)も含めることができ、講座等の履修単位と重複する場合も評価されます。申請に必要な書類、経験年数等、詳しくはレベル認定申請の手引き(CLG101)をご覧ください。

講座等	申請上限レベル
一般社団法人日本有機資源協会 「バイオマス活用総合講座」	3
一般社団法人日本有機資源協会 「バイオマス活用アドバイザー養成研修」	4
一般社団法人日本有機資源協会 「コンポスト生産管理者養成研修」	3
一般社団法人日本有機資源協会 「コンポスト生産管理者フォローアップ研修」	3
一般社団法人日本有機資源協会 「メタン発酵技術アドバイザー養成研修」	2
一般社団法人日本有機資源協会 「バイオディーゼル燃料基礎講座」	1
一般社団法人日本有機資源協会 「バイオディーゼル燃料製造管理者及び利用管理者養成研修」	2
日本大学生物資源科学部生物環境工学科 以下 A～F 事項のいずれか、又は組合せで構成する科目 8 単位以上※  A. 地球温暖化問題の現状と対策等に係る事項 B. 大気、水、土壌環境等の保全に係る事項 C. 生物多様性の保全と自然共生社会の実現への取組みに係る事項 D. 循環型社会の形成に係る事項 E. 化学物質の環境リスク評価・管理に係る事項 F. 国際協力、各種施策への取組みに係る事項	1
日本大学生物資源科学部生物環境工学科 以下 A～F 事項のいずれか、又は組合せで構成する科目 16 単位以上※  A. 地球温暖化問題の現状と対策等に係る事項 B. 大気、水、土壌環境等の保全に係る事項 C. 生物多様性の保全と自然共生社会の実現への取組みに係る事項 D. 循環型社会の形成に係る事項 E. 化学物質の環境リスク評価・管理に係る事項 F. 国際協力、各種施策への取組みに係る事項	2

※ (授業科目の 1 単位) 15 時間から 30 時間までの範囲で日本大学が定める時間